

掘り出された干支えと一午うま一はかさ (豊岡市出石町袴狭遺跡・同日高町南構遺跡)

令和8年は午年うまですね。馬は躍動や成功、勝負運をあらわすとされています。みなさんにとって今年1年が飛躍の年になりますように。

さて、朝鮮半島から伝来した馬は古墳時代中期に普及してゆきます。煌きらびびやかな馬具で飾られた馬は王や首長の権威の象徴でしたが、祭祀とも深い関わりがありました。奈良~平安時代の記録には、雨乞ぎいや止雨祈願の祭祀での奉納とさつや屠殺記事のほか、病気を広める行疫神ぎょうやくじんや人に災いを及ぼす荒神あらがみの乗り物としての描写があります。馬に靈力を感じ、祭祀の中で重要な役割をもたせたようです。

粘土で小さく馬を象かたどった土馬どばも祭祀に使われました。袴狭遺跡から出土した土馬は、口を小さく開け、目と鼻、耳を刺突で表し、細い線たずなで手綱おもがと面繫いを描いています。後頭部の粘土をわずかにつまみ出しているのはたてがみでしょう。奈良時代のものです。南構遺跡の土馬は袴狭遺跡のものに比べて丁寧に表現され、より古い様相がみられます。

土馬は壊れた状態で出土することが多く、祭祀にあたりわざと壊されたためと考えられています。壊れた土馬には古代人の祈りや願いが込められているのですね。

